

第2節

暮らし

1. 住まいの状況

在宅の身体障害者（18歳以上）の住まいとしては、8割以上が本人又は家族の持ち家に住んでおり、借家や借間等の割合は少ない。

在宅の知的障害者（18歳以上）の住まいとしては、自分の家やアパートが8割以上を占

めるが、知的障害者のための支援付きの住まいであるグループホームや通勤寮を利用している人もいる。

外来の精神障害者の住まいとしては、約4分の3が家族と同居しており、一人暮らしは2割弱となっている。このほか精神障害者のための支援付きの住まいであるグループホームや福祉ホーム等を利用している者、高齢者のための老人福祉施設を利用している人もいる。

■ 図表1-12 身体障害者の住まいの状況（18歳以上）（在宅）

単位：%

自身の持ち家	家族の持ち家	民間賃貸	社宅等	公社・公団等	その他(借間等)	回答なし
51.7	30.6	6.4	0.4	7.6	1.8	1.5

資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成18年）

■ 図表1-13 知的障害者の住まいの状況（18歳以上）（在宅）

単位：%

自宅の家やアパート	会社の寮	グループホーム	通勤寮	その他	不詳
82.0	0.3	8.9	0.1	7.5	1.1

資料：厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）

■ 図表1-14 精神障害者の住まいの状況（外来）

単位：%

家族と同居	ひとり暮らし	福祉ホーム等	グループホーム	老人福祉施設	その他
76.8	17.9	1.3	1.7	0.5	1.8

資料：厚生労働省「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」（平成15年）